

緑の相談所だより

No. 123

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所
〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 電話 0166-65-5553

発行:平成 22 年 4 月 1 日

講習会のご案内

「観葉植物の植替え実習」

- 1 人 2 鉢以内 - シェフレラ、カンジラン等、洋ラン以外 -
とき 平成 22 年 4 月 18 日(日) 実費
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 旭川市緑の相談所 相談員

「洋ランの植替え実習」

- 1 人 2 鉢以内 - シンビジウムのみ -
とき 平成 22 年 4 月 24 日(土) 実費
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 旭川蘭友会 会長 谷口 忠一さん

「洋ランの植替え実習」

- 1 人 2 鉢以内 - シンビジウム以外 -
とき 平成 22 年 4 月 25 日(日) 実費
午後 1:30~3:30 定員 20 名
講師 旭川蘭友会 会長 谷口 忠一さん

「家庭で作るおいしい野菜栽培のコツ」



とき 平成 22 年 5 月 9 日(日)
午後 1:30~3:30 定員 50 名
講師 旭川市緑の相談所 相談員



「果樹の栽培管理」 - 芽摘み・摘果・夏剪定 -

とき 平成 22 年 5 月 16 日(日)
午後 1:30~3:30 定員 50 名
講師 旭川市緑の相談所 相談員

「ミニ盆栽を作ってみよう」(実習)

とき 平成 22 年 5 月 23 日(日)
午後 1:30~3:30 定員 50 名 教材費 1,000 円
講師 旭川ミニ盆栽愛好会長 長谷川八郎さん



展示会のご案内

「野の花写真展」出展:神田亘雄さん

平成 22 年 4 月 3 日~30 日

「ホ・タニカルアート」出展:旭川植物画サークル

平成 22 年 5 月 1 日~30 日

「サツキ展」出展:旭川サツキ会

平成 22 年 5 月 28 日~30 日



「春の洋ラン展」出展:旭川蘭友会

平成 22 年 4 月 23 日~25 日

「ミニ盆栽展」出展:旭川ミニ盆栽愛好会

平成 22 年 5 月 21 日~23 日

※サツキの育て方相談※初日は午後 1 時から
5 月 28 日~30 日 最終日は午後 3 時まで

展示会の初日は準備のため、ご観覧は午後からです。

4 月~10 月は第 2・第 4 月曜日が休館日です。

11 月~3 月は毎週月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

※各講習会のお申込み受付は前月の 20 日から、定員になり次第締切です。

お申込み・お問合せは



(0166) 65-5553



4 月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

アザレアは樹形を整える剪定をした後、固まったフェルト状の根を崩して3分の1くらい切り取って植替えしましょう。

ゼラニウム、フクシャ、ポインセチアなど徒長枝の鉢は間引きや切戻し剪定をしましょう。

夏花壇用のサルビアやマリーゴールドなどは上旬にタネを播きましょう。

チューリップやスイセンは雪が消えたら、球根の周りに油粕や化成肥料を1㎡当たり各50~60g施しましょう。



2 観葉植物類

日中は暖かくても夜間は温度が下がるので最低気温に注意し、凍霜害にならないよう気をつけましょう。

ハダニやオンシツコナジラミ、コナカイガラムシをみつけたら早目に防除しましょう。

3 多肉植物・サボテン類

だんだんと日差しが強くなりますので、日当たりの良い窓辺に置いて、少しずつ水やりを開始しましょう。

シャコバサボテンは先端の茎を2~3節摘んで全体の樹形を整えてから植替えをしましょう。

4 洋ラン類

シンビジウムやデンドロ・ノビル系は少しずつ日光に馴らし、日当たりの良い場所に移動しましょう。

カトレアやコチョウランはレースのカーテン越しに置き日焼けに注意しましょう。

水やりは乾いたらタツプリやりましょう。

カトレア、コチョウラン、デンドロ、オンシジュームなどは植替え後に水を与えず、霧だけで3週間ほど養生させて根の傷みの回復と発根を促しましょう。

5 月の園芸作業

1 鉢花・草花・球根類

ベコニア、フクシャ、ゼラニウムなどは植替えをして生長に合わせて水やり回数を多くします。肥料は置肥と液肥を併用しましょう。

室内のアマリリスなど花が終わったものや花が咲かないものは植替えをして日当たりの良い場所で育てましょう。

ベコニアなどの鉢花は曇りの日か雨の日に屋外に出し、外気に馴らしてから屋外に出しましょう。

ダリア、カンナは地温が10℃以上なり、降霜に気をつけて5月下旬以降に定植しましょう。

雪解けとともに芽を出すプリムラ、シャクヤク、シバザクラなどの宿根草にはなるべく早く油粕と化学肥料を与えましょう。

2 観葉植物類

2~3年経った鉢は早目に新しい用土に植替えし、同時に徒長した枝は剪定して樹形を整えましょう。新芽が出てきた鉢はかん水を多くし液肥を与えましょう。

3 多肉植物・サボテン類

アロエ、カネノナルキなどの多肉植物やサボテン類は生長期なので屋外の日当たりの良い場所で水と肥料を与えましょう。

(晩霜に注意して少しずつ馴らしてください。本格的な屋外は6月からです。)

4 洋ラン類

新芽の生長が見られる株には1,000~2,000倍の液肥を10日毎に与え、水やりは乾いたらタツプリ与えましょう。

シンビやデンドロは晴天の日は屋外に出し、日光に当てて置肥も始めます。日光に馴らすための遮光も必要です。シンビの芽は1パルブ1芽を確実に残し、他の芽はかき取りましょう。



エゾニワトコ (蝦夷接骨木)

スイカズラ科 ニワトコ属



鳥カゴの止まり木に欠かせない木

エゾニワトコは春の芽立ちがすばらしく、実が赤くなり始めるのも早いです。夏の初め、青い葉に交じって赤い小さな実が密集し、けっこう人目を引きまします。カラスがよく食べ、うまそうに見えますが、味はまずいようです。

日当たりのよいところに見られる落葉低木

北海道に自生するのがエゾニワトコで、森の中、林のふち、道ばたなど日当たりのよいところに多く見られる落葉低木です。果実の黄色いキミノエゾニワトコもあります。

古くから薬用として利用

鮮やかな緑の新芽がまだ葉にならない頃、こずえには淡い黄緑色の細かな花が群れをなして盛り上がるように咲きます。この半開きの花を乾燥させたものを接骨木花といいます。この花を煎じて内用したり、打撲傷の湿布などに使われます。漢字の「接骨木」は幹や枝を乾燥させたものをいい、捻挫や骨折に薬効があります。葉や茎を干したものは発汗剤や利尿剤としてよく効くことが古くから知られています。

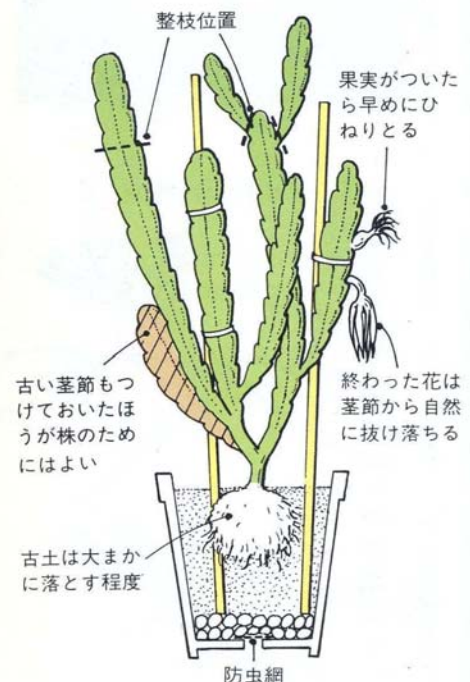
緑の相談 QアンドA (1)

クジャクサボテンを育てているが、大きくなるばかりで花が咲きません。どうしたら咲くようになりますか。

クジャクサボテンはメキシコに自生しているものを改良したものです。サボテン特有の春と秋が生長期です。生長期の春から初夏にかけては、チッソ分の少ない液肥(1,000倍)を10日に1回、固形肥料の置き肥を1ヶ月毎に施します。真夏から冬は肥料をやりません。

夏は休眠期と考えて、強い日光に当てないように50%位の遮光で半日陰に置き、充実した茎葉を育てます。冬はガラス越しの光を良く当てて、10℃くらいの低温でかん水をせず、葉が赤みを帯びるほど乾かすと花芽が良くつきます。この時期にかん水すると花芽がほとんど出ません。

もう一つのポイントは植え替えを毎年していると茎葉が良く茂り花芽がつきづらくなります。植替えは2、3年に1回位にとどめましょう。



クンシランの開花後の管理

クンシランはランという名がついていますが、ご存知のようにラン科の植物ではなく、ヒガンバナ科の植物です。花も葉も美しい鉢物で観葉植物として古くから人気があります。日常管理が容易なことと、長命な鉢物、そして、高貴な花であるため広く愛好者に親しまれています。

生育特性

生育適温は15～20℃です。この温度で1年間休みなく生長します。直射日光で葉焼けしやすいので注意が必要です。また加湿や霜などの寒さに弱いのも特徴です。

先ず植替

2、3年に1度行います。時期は4月下旬～5月上旬です。ポイントは2週間前からかん水を中止すると根がほぐれやすくなり作業が楽です。用土は赤玉土、腐葉土、火山レキを同量に混ぜて使います。施肥は約1ヵ月後からが目安です。

置き場所

6～9月いっぱい葉焼けに注意し、屋外の半日陰の場所に置いて肥培管理の開始です。その後、初霜が降りる10月始から12月位まで、室内の明るく低温(5～10℃程度)のところで育てます。花芽が確認できてから少し暖かい部屋に移します。

施肥

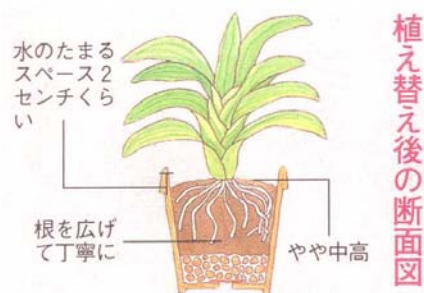
液肥は窒素分が少ないものを、4月から8月いっぱいまで1,000倍液で10日に1回の割合で与えます。置き肥は戸外に出してから8月まで中粒程度の固形肥料を5号鉢で5個、6号鉢で6個位の割合で施します。

開花習性

開花株は葉数が16～17枚以上で新葉が5～7枚生ずると先端に花芽をつける習性があります。花芽分化は日長、低温に関係なく栄養生長が行われる適温条件下で毎年します。花芽が生長して開花するためには、栄養と低温の刺激が必要です。条件(上記、置き場所に記載・60日間)が合わないと開花できなかったり、株元で開花したりします。

水の与え方

生長期には表面が白く乾いたら、鉢底から水が流れるくらいタップリ与えます。低温期には控え目にして根腐れに気をつけます。また、10月から低温入室した鉢にはかん水をしないで管理し、花蕾を確認してからかん水を始めます。



展示室の植物たち(30)

フミリス(和名ジュズサンゴ) ヤマゴボウ科リヴィナ属

北アメリカ南部と中央・南アメリカに分布しています。草丈は40～60cmで木本状になり、花は径が3mmと極小で、実も径5mm位と小さくつきます。果色が鮮やかな紅色で、数珠のように連なって着くことからこの和名がついたようです。このかわいい実と色が園芸愛好者には人気があり、当温室では5、6年生の親木から苗をたくさん増やして、花売り場で販売しています。売り上げ人気の植物の一つです。

